

トコブシの籠養殖試験

1. 目的

海上施設を使用して小型籠を垂下、2種類のシェルターを設置して成長速度、歩留まり、採算面について検討する。

2. 対象

浦添宜野湾漁協トコブシ養殖グループ

3. 協力機関

水産試験場・浦添宜野湾漁協

4. 経過

(1) 籠の製作

9月7日に高齢者実践活動事業の打ち合わせを水産試験場與那嶺主任研究員と浦添宜野湾漁協西原氏を交えて種苗配布が可能か・資材種類調達方法及び制作・設置方法・飼育管理面の注意事項等について話し合う。トコブシ種苗配布が可能になったことでトコブシ養殖用籠の制作日程を9月中頃に決定した。

トコブシ等試験養殖に関する契約書作成について作業をすすめ漁政課と何回か調整し10月から試験を開始することとした。

9月16日に普及所において浦添宜野湾漁協養殖グループ3名が水産試験場與那嶺主任研究員の指導をうけてトコブシ養殖用の籠の制作作業を実施した。水試が開発したトコブシ用籠（市販されているマルチボックスにドリルを使用して直型5mmの穴を無数あけ、汚染防止用の塗料を塗り、エンパイプや雨ドイを加工してシェルターを合計

10籠を製作した。

(2) 種苗の配布輸送

稚貝の輸送は9月20日に実施した。前回の作業で製作した養殖籠に1kg錘と垂下用ロープを取り付け、水試で選別、測定した稚貝を100個ずつ籠入れ、アナアオサと一緒に収容してトラックで陸上輸送、宜野湾の仮設漁港内に仮垂下した。稚貝は養殖試験用として水産試験場から無償で譲渡された。種苗の大きさは36個平均殻長28.7mmサイズの大きさであった。

(3) 経過

試験区はA区（シェルター縦型）B区（シェルター横型）を設定した。餌は開始当初からアナアオサ主体に給餌、アナアオサが確保できない場合はトコブシ用配合飼料（台湾産）を給餌した。両区とも籠の蓋部分に5割、シェルター部分に5割の付着がみられた。そのため、給餌作業の蓋の開閉により稚貝がはさまれ、殻を損傷することがたびたびみられた。給餌後蓋の閉じ方が充分でなく夜間に稚貝の逃亡が1回だけある。

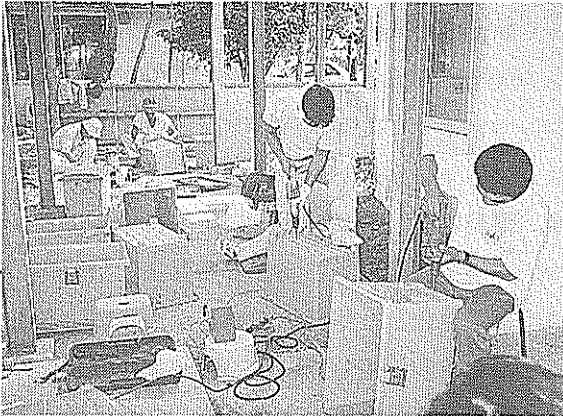
成長については養成開始から3ヶ月後の平成12年1月20日にはA区が42.4mm・B区が43.3mmで両区ともほとんど成長差はないがややB区が良い傾向にある。4ヶ月後の2月24日には縦型・横型シェルター別の殻長測定の結果は49mmの大きさと先月よりも6～7mm伸長した。5ヶ月後の3月1日の測定結果は両区とも平均殻長は53mmで先月より4mm伸長しコマーシャルサイズとみら

れる殻長50mm以上に成長した。

歩留まりをしてみると斃死はほとんどなく籠の開閉による損傷、あるいは誤って海中に落とすことで歩減りがある程度であった。

今後の課題としては成長・歩留まりにつ

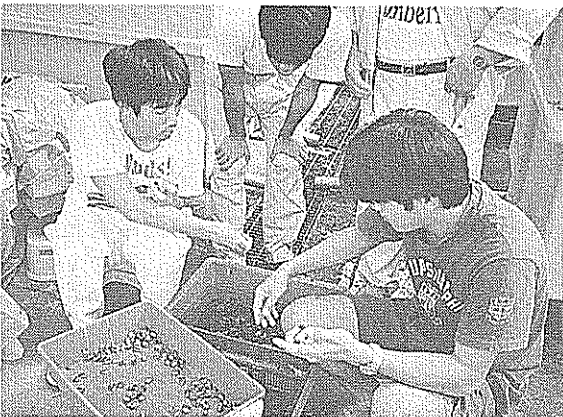
いてある程度の知見が得られたが経営的な資料を得るためには養殖籠を大きくしてトコブシ収容数を増やし現在の10倍程度拡大して採算面で利益があるのか継続して試験を行う必要がある。



マルチボックスに直径5mmの穴をドリルによりあけているところ



生簀杵から籠を引き揚げ、麻酔により付着したトコブシを取り上げ測定



中間育成中のトコブシの選別と測定作業100個づつ計数され籠に収容、輸送準備(水産試験場)



トコブシ養殖試験が予定されている宜野湾仮設港内生籠杵内で垂下



給餌するため籠をあけたところ40個程度蓋にトコブシを付着している



測定するため蓋からトコブシを1個づつはずしているところ